【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第３区分
【発行日】令和4年4月1日(2022.4.1)

【公開番号】特開2021-32528(P2021-32528A)
【公開日】令和3年3月1日(2021.3.1)
【年通号数】公開・登録公報2021-011
【出願番号】特願2019-155628(P2019-155628)
【国際特許分類】
Ｆ２４Ｆ　7/06(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ２４Ｆ　7/06　１０１Ａ

【手続補正書】
【提出日】令和4年3月24日(2022.3.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
流出口と流入口を有したケースと、
前記ケースの内部には、前記流出口と連通したチャンバー空間と、前記流入口の奥部に形成した流入空間と、前記チャンバー空間と流入空間を連通させる通風路とを備え、
前記通風路には、前記流入空間側から前記チャンバー空間側へ該通風路の通風方向に沿って圧縮空気を噴射させる空気噴出口と、前記通風路の出口側において前記空気噴出口に対向する衝突面とを配置した油煙捕集装置。
【請求項２】
前記流入口は、前記ケースの底面中央部に開口し、
前記流入空間は、前記流入口から前記ケースの内部に向けて延設した第一の筒体と、該第一の筒体の端部から軸方向に第一の隙間を開けて配置した頂面とによって形成され、
前記頂面の外周端部は、前記第一の筒体よりも外側で前記ケースの底面に向けて延設した第二の筒体に接続され、
前記第二の筒体の端部は、前記ケースの前記底面に対して第二の隙間を開けて配置され、前記第一の隙間が前記通風路の入口となり、前記第二の隙間が前記通風路の出口となり、
前記通風路は、前記第一の筒体と前記第二の筒体とによって形成されている請求項１に記載の油煙捕集装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
そして、この目的を達成するために、本発明に係る油煙捕集装置は、流出口と流入口を有したケースと、ケースの内部には、流出口と連通したチャンバー空間と、流入口の奥部に形成した流入空間と、チャンバー空間と流入空間を連通させる通風路とを備え、通風路には、流入空間側からチャンバー空間側へ該通風路の通風方向に沿って圧縮空気を噴射させる空気噴出口と、通風路の出口側に空気噴出口に対向する衝突面とを配置したものであり

、これにより所期の目的を達成するものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
本発明によれば、空気噴出口から噴射された圧縮空気の勢いによって油の粒子の移動速度が上昇した状態で衝突面に向かうため、慣性力によって油の粒子が衝突面に付着する。圧縮空気の噴射によって粒子の移動速度が高いため、小さな粒子径のものも衝突面に付着するため、油煙捕集性能が高くなる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
本発明に係る油煙捕集装置は、流出口と流入口を有したケースと、ケースの内部には、流出口と連通したチャンバー空間と、流入口の奥部に形成した流入空間と、チャンバー空間と流入空間を連通させる通風路とを備え、通風路には、流入空間側からチャンバー空間側へ該通風路の通風方向に沿って圧縮空気を噴射させる空気噴出口と、通風路の出口側に空気噴出口に対向する衝突面とを配置したという構成を有する。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
また、本発明に係る油煙捕集装置では、流入口は、ケースの底面中央部に開口し、流入空間は、流入口からケースの内部に向けて延設した第一の筒体と、該第一の筒体の端部から軸方向に第一の隙間を開けて配置した頂面とによって形成され、頂面の外周端部は、第一の筒体よりも外側でケースの底面に向けて延設した第二の筒体に接続され、第二の筒体の端部は、ケースの底面に対して第二の隙間を開けて配置され、第一の隙間が通風路の入口となり、第二の隙間が通風路の出口となり、通風路は、第一の筒体と第二の筒体とによって形成されているという構成を有する。